

JC-SAT 2005 会議報告

電子情報通信学会 衛星通信研究専門委員会
委員長 小林 英雄

AIAA 衛星通信フォーラムと電子情報通信学会通信ソサイエティ衛星通信研究専門委員会(SAT 研)は、衛星通信技術の発展と日韓の研究者の情報交換を目的とした Joint Conference on Satellite Communications (JC-SAT)2005 会議を 2005 年 10 月 13 日～14 日に名古屋市内のホテルルブラ王山にて開催した。本会議は、IEEE VT ソサイエティ日本支部、韓国衛星産業会(KOSST)、韓国通信学会(KICS)、韓国 ETRI、韓国 SK Telecom、韓国 Telecom、韓国 IITA、韓国 KARI との共催で、電気通信普及財団より会議助成を受けて実施された。本会議は、2000 年に第 1 回目が韓国で開催され、その後毎年日本と韓国で交互に開催されており、今回は第 6 回目の開催となる。

会議は、SAT 研小林委員長と KOSST Chung 会長によるオープニングの後、KDDI の水池健氏と韓国 ETRI の Ho-Jin Lee 氏による 2 件の基調講演を皮切りに 8 セッション 26 件の研究論文の発表が行われた。

現在、ITU SG8 の副議長を務めている水池氏の基調講演では、“Trend of Technology Development and Standardization Activities in Satellite Communications”と題して、衛星通信に関連した標準化活動の現状と将来動向について説明が行われた。特に、現在問題となっている衛星業務と他業務との干渉調整問題や周波数共用問題等の最新トピックについて紹介された。また、次回の世界無線通信会議(WRC07)の衛星通信に係わる主要な議題についての紹介が行われた。ETRI で衛星関連の研究開発責任者を務めている Lee 氏の基調講演では、“ETRI R&D Activities Along with



オープニングで挨拶に立つ小林 SAT 研委員長

European Satellite Communications R&D and Standardization”と題して、韓国におけるブロードバンド衛星通信システムに関する研究開発の現状について講演が行われた。この中で、固定(VSAT)、放送、移動を対象とした幾つかのブロードバンド衛星通信プロジェクトが紹介された。特に、日本においても検討が行われている電車の乗客を対象とした衛星高速インターネットサービスの実証実験を伝で行い実用化の目処が得られたとの報告があった。韓国では、各種衛星通信サービスの提供を目的とした開発に重点を置いており、これまでに欧州を中心としたマーケット展開を考えているなど衛星通信開発の積極的な取り組みが伺えた。

一般講演では、CMOS (Communication, Ocean and Meteorological Satellite)、準天頂衛星(QZSS)、飛行船(HAP)等の韓国と日本における新たな衛星通信システムの検討や衛星 IP の効率的なルーティング法の検討、衛星通信への適用を考慮した OFDM 方式の検討、アンテナ設計技術、衛星内信号処理技術等の日韓

における最新の研究成果などが報告された。これら講演より，日本と韓国における衛星通信システムの研究開発の現状と将来動向について把握できた。講演論文の詳細については，電子情報通信学会技術研究報告に掲載されているのでご覧いただきたい。

本会議には，講演者，オーガナイザ，聴講者を合わせて総勢 70 名程度が参加し大変盛況であった。また，会議初日のセッション終了後にはレセプションが開催され，セッションでの発表に関する議論が引き続き行われると共に，日韓の参加者の間で衛星通信の将来について意見交換が行われた。

2006 年度，本会議は韓国での開催を予定している。詳しくは，SAT 研 HP (<http://www.ieice.org/cs/sat/jpn>) で確認頂くか，メールで問い合わせを頂きたい。
(sat@ieice.org)